会派研修報告

青雲倶楽部
山田龍太郎、大泉徳子、熊谷克彦、
寺嶋雅子、二階堂充、佐藤繁樹、鈴木英信

日　　時：令和７年３月31日　10：00～14:00
場　　所：名取市議会会派室
講義表題：「質問づくりの本質とは」
講　　師：地方議員研究会　黒瀬雄大氏
受講方法：動画視聴

※受講風景

＜講師プロフィール＞

講師：黒瀬雄大（くろせゆうだい）　氏

九州大学経済学部経済工学科卒業　大阪市立大学大学院創造都市研究科終了　大阪大学大学院国際公共政策研究科博士課程単位取得退学（職歴）大阪府交野市役所勤務（税務室、財務課、こども室）大阪府交野市議会議員　民間ITコンサルタント会社勤務を経て独立。

＜講義内容＞
質問の目的を「行政を動かすこと」と設定しています。行政を動かすための質問の基本的な考え方を、職員の立場を理解することから解説。

質問の目的
・普通の質問と議会の質問の違い
・質問と質疑の違い

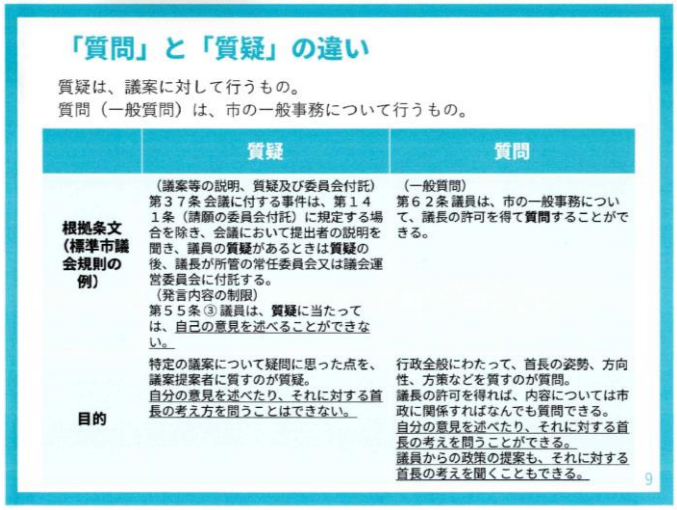
・オープンクエスチョンとクローズドクエスチョン
・国、都道府県、市町村の役割分担質問の基本
質問の基本
・自治体職員の 一般質問に対する正直な思い
・自治体員と職員の違い
・職員からみて良い議員とは ・職員からが嫌いな議員とは
・職員から尊敬される議員の特徴
良い質問 ・悪い質問の具体例
・悪い質問の具体例
・ 良い質問の具体例
・ 良い質問の「たちつてと」
役所を動かす質問 黄金のフレーム ワーク
・行政が動かざるをえない質問の構成
・質問の黄金のフレームワーク
・黄金フレームワークを使った質問の実例

質問の目的／要点整理

普通の質問と議会の質問の違い
目的の違い：
一般的な質問は「理解を深めること」が目的。一方、議会における質問は「行政に行動を促すこと（政策の動機づけ）」が本質的な目的である。
実務への示唆：
議員個人の理解を深めるための質問は、本来の職務目的と異なるため、自主的な事前調査が前提（例：資料読解、ヒアリング、先行事例の確認）。
問いの焦点は「追及」よりも「改善提案や実行促進」に重きを置くべき。質問行為は一種の「戦略的コミュニケーション（知的ゲーム）」として捉え、明確なゴール設定とロジカルな組み立てが不可欠である。

マインドセット（心構え）の重要性
臨む姿勢：
技術的スキル以上に、「健全な批判精神」や「職業的懐疑心」を持つことが重要。
支持する立場の議員こそ、政策の理解と納得をもって質問に臨む責任がある。
「信頼しているから確認しない」という姿勢は不適切であり、関係性にかかわらず、適切なチェックと質問が求められる。
役割人格：
質問時には、日常の自分とは異なる「議員としての役割人格」を意識すること。
冷静かつ客観的に物事を捉え、過度な感情表現は避ける。

質問と質疑の定義の違い



「質問」と「質疑」の違い

質疑は、議案に対して行うもの。
質問（一般質問）は、市の一般事務について行うもの。

	質疑	質問
根拠条文（標準市議会規則の例）	（議案等の説明、質疑及び委員会付託） 第３７条 会議に付する事件は、第１４１条（請願の委員会付託）に規定する場合を除き、会議において提出者の説明を聞き、議員の**質疑**があるときは**質疑**の後、議長が所管の常任委員会又は議会運営委員会に付託する。 （発言内容の制限） 第５５条③ 議員は、**質疑**に当たっては、自己の意見を述べることができない。	（一般質問） 第６２条 議員は、市の一般事務について、議長の許可を得て**質問**することができる。
目的	特定の議案について疑問に思った点を、議案提案者に質すのが質疑。 自分の意見を述べたり、それに対する首長の考え方を問うことはできない。	行政全般にわたって、首長の姿勢、方向性、方策などを質すのが質問。 議長の許可を得れば、内容については市政に関係すればなんでも質問できる。 自分の意見を述べたり、それに対する首長の考えを問うことができる。 議員からの政策の提案も、それに対する首長の考えを聞くこともできる。

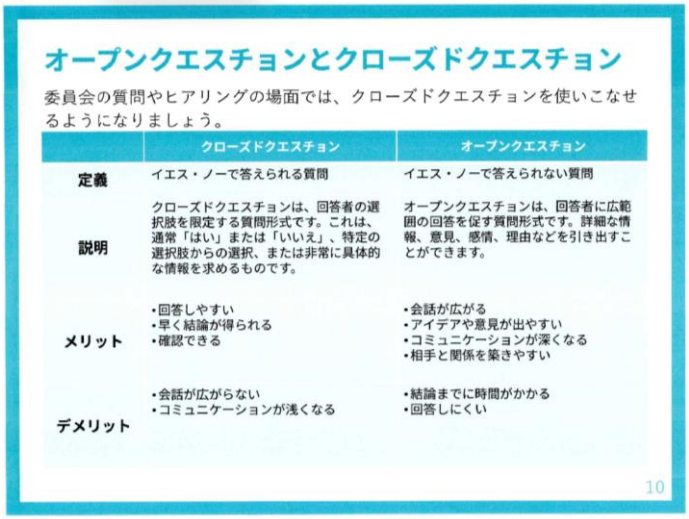
9

両者は混同しがちだが、議会の運営や戦略において区別して活用することが求められる。

クローズドクエスチョンとオープンクエスチョン

クローズドクエスチョン
形式：Yes / No で回答可能な質問
主な用途：事実確認、選択肢の絞り込み
例：「〇〇は実施されましたか？」「△△はいつ行われますか？」
注意点：会話が深まりにくく、情報量は限定される。

オープンクエスチョン
形式：自由記述で回答が必要な質問
主な用途：背景の把握、意図や思考の引き出し、対話の深化
例：「〇〇の背景を教えてください」「この方針に関してどのような想定をお持ちですか？」
活用例：課題の掘り下げ、現場の声を聞く、当事者意識を促す場面



オープンクエスチョンとクローズドクエスチョン

委員会の質問やヒアリングの場面では、クローズドクエスチョンを使いこなせるようになりましょう。

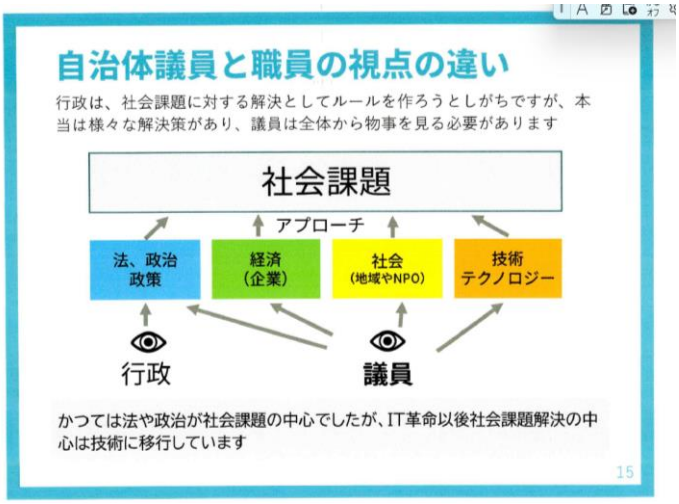
	クローズドクエスチョン	オープンクエスチョン
定義	イエス・ノーで答えられる質問	イエス・ノーで答えられない質問
説明	クローズドクエスチョンは、回答者の選択肢を限定する質問形式です。これは、通常「はい」または「いいえ」、特定の選択肢からの選択、または非常に具体的な情報を求めるものです。	オープンクエスチョンは、回答者に広範囲の回答を促す質問形式です。詳細な情報、意見、感情、理由などを引き出すことができます。
メリット	・回答しやすい ・早く結論が得られる ・確認できる	・会話が広がる ・アイデアや意見が出やすい ・コミュニケーションが深くなる ・相手と関係を築きやすい
デメリット	・会話が広がらない ・コミュニケーションが浅くなる	・結論までに時間がかかる ・回答しにくい

10

質問の基本／要点整理

自治体職員の質問に対する基本的な認識
質問通告に対する反応：質問が自分の担当部署に来ないことを職員は強く望む。質問対応は通常１週間程度を要し、大きな負担と捉えられている。
望ましい状況：「ゼロ回答」（質問前後で状況に変化なし）が最も理想的。業務が増えない、波風が立たないことが好まれる。
課題意識：公務員は揉めごとを避けたがる傾向が強く、市民や議員との対立は評価を下げるリスクがあると認識している。

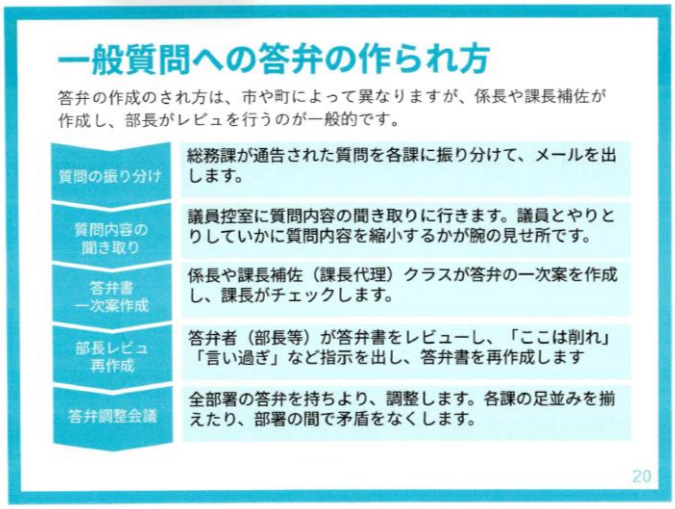
議員と職員の視点のギャップ
視点の違い：行政はルールベースの対応を優先しがちだが、議員は全体最適の視点から複数の解決策を模索する役割を担うべきである。
時代の変化：IT 革命以降、社会課題の解決は法律や制度よりも「技術」が中心となっている。



職員が評価する議員像
形式的な評価：質問や提案を一切せず、存在感のない議員が「職員にとって都合が良い」議員と見なされる。
実質的なリスク：このような議員は職員から軽視される一方で、行政監視機能を果たしておらず、二元代表制の役割も果たしていない。

職員が忌避する議員像
的外れな質問：論点が不明確で、調査不足のまま臨むケース。
思いつき質問：流行りや他自治体の事例を安易に引き合いに出し、独自性や地域性に欠ける。
責任の所在の誤認：執行責任を持たないにもかかわらず、過剰に要求・批判する態度。
成果の横取り・干渉：行政の取り組みを自分の成果とし、手続き上の混乱を招く行動。

尊敬される議員の特徴
尊敬の要件：職員からの好感よりも、「敬意」を持たれる議員こそが行政を動かす力を持つ。
本質的な役割認識：職員との信頼関係を築きつつ、建設的かつ戦略的に質問・提案ができる議員が、組織内外から高く評価される。



良い質問・悪い質問／要点整理

悪い質問の特徴と具体例
質問が曖昧だったり、行政の反応を引き出せない内容は、時間の無駄となり得る。具体性に欠け、行動を促す効果がない。
【悪い質問の例】
- 「意気込みをお聞かせください」→抽象的すぎる
- 「この予算はなんですか？」→事前に調べられる内容
- 市の範囲外の質問→対象外で意味がない
- 長々とした意見表明→質問ではなく感想に終始する

【改善ポイント】
- 調査可能な内容は事前に確認
- 答弁可能な範囲を見極める
- 意見ではなく、具体的な事実確認や提案につなげる形にする

良い質問の特徴と変換例
「悪い質問」をひっくり返すことで「良い質問」になる。具体的な行動・数値・比較を問い、実質的な議論を促す。

【良い質問の変換例】
- 「意気込み」→「どのように実現するのか？」「いつまでに結論を出すのか？」

- 「この予算は？」→「どのような成果を見込んでいるか？」「どの数字が改善するのか？」
- 市の範囲外→他市の事例を引用して自市への適用可否を問う
- 意見の陳述→過去答弁や国の資料を引用して「第三者の意見」として構成

良い質問の技法:「たちつてと」
コミュニケーションを活性化するフレーズの頭文字を活用し、論点を明確化・深堀りする。

良い質問の「たちつてと」

委員会での質問や、ヒアリングでのコミュニケーションでは「たちつてと」を意識すると便利です。

	項目	説明
た	例えば？（具体的には？どのような想定ですか？）	説明がふわっとしているなと感じたときに使いましょう。抽象的な説明を受けたときに具体例を引き出します。
ち	違いは？（差分はなんですか？）	違いがわからないときに使いましょう。事業の目的は、違いを生み出すことです。旧事業と新事業の違い、やるときとやらないときの違いを説明させましょう。
つ	つまり？（要するにどういうことですか？）	理由をくどくど並べたり、説明が長くて、理解できないと感じたときに使いましょう。
て	定義は？（〇〇という言葉はどのような意味で使っていますか？）	用語がわからないときに使う他に、曖昧な言葉ではぐらかされてると感じたときに使いましょう。
と	統計的な裏付けは？（数字の裏付けは？）	ホントか？そんなこといいきれるのか？と思ったときに使いましょう。

32

良い質問の「たちつてと」の使用例

委員会での質問や、ヒアリングでのコミュニケーションでは「たちつてと」を意識すると便利です。

	項目	使用例
た	例えば？	「緊急の場合とは、例えばどのようなケースを想定されていますか。」 「公共施設等の等とは、具体的になんですか」
ち	違いは？	「この事業をやるときとやらないときの違いはなんですか」 「この事業をやったことで、どのような数字が何から何になったのですか」
つ	つまり？	「つまり、問題の核心はどこですか」 「要するに、何が一番重要だと考えているのですか」 「つまり・・・」と要約を促すだけでも効果があります。
て	定義は？	「総合的に、の定義はなんですか」 「時期をみて、の定義を教えてください」 「」
と	統計的な裏付けは？	「事業の効果があったとおっしゃった統計的な裏付けを教えてください」 「アンケート結果についてで統計的有意性は検証されたのか教えてください」

33

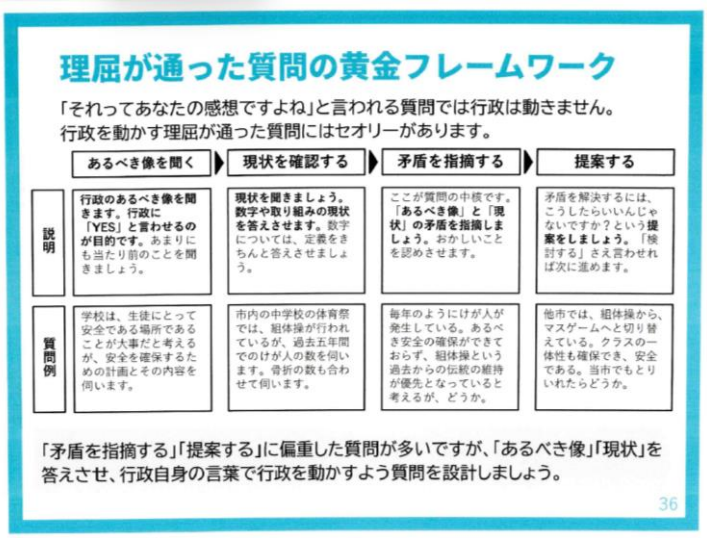
役所を動かす質問 黄金のフレームワーク／要点整理

行政に「動いたほうが得だ」「動かざるをえない」と思わせるためには、質問を硬軟織り交ぜて使うのが効果的。

理屈が通った質問を行う ／ 行政が動くまで質問を行う ／行政が動いたときには、議場で職員を褒める ／ 行政が動かないときは、議場で詰める

理屈が通った質問の黄金フレームワーク

あるべき像を聞く→現状を確認する→矛盾を指摘する→提案する



理屈が通った質問の黄金フレームワーク

「それってあなたの感想ですよね」と言われる質問では行政は動きません。
行政を動かす理屈が通った質問にはセオリーがあります。

	あるべき像を聞く	現状を確認する	矛盾を指摘する	提案する
説明	**行政のあるべき像を聞きます。行政に「YES」と言わせるのが目的です。**あまりにも当たり前のことを聞きましょう。	**現状を聞きましょう。数字や取り組みの現状を答えさせます。**数字については、定義をきちんと答えさせましょう。	ここが質問の中核です。**「あるべき像」と「現状」の矛盾を指摘しましょう。**おかしいことを認めさせます。	矛盾を解決するには、こうしたらいいんじゃないですか？という**提案をしましょう。**「検討する」さえ言わせれば次に進めます。
質問例	学校は、生徒にとって安全である場所であることが大事だと考えるが、安全を確保するための計画とその内容を伺います。	市内の中学校の体育祭では、組体操が行われているが、過去五年間でのけが人の数を伺います。骨折の数も合わせて伺います。	毎年のようにけが人が発生している。あるべき安全の確保ができておらず、組体操という過去からの伝統の維持が優先となっていると考えるが、どうか。	他市では、組体操から、マスゲームへと切り替えている。クラスの一体性も確保でき、安全である。当市でもとりいれたらどうか。

「矛盾を指摘する」「提案する」に偏重した質問が多いですが、「あるべき像」「現状」を答えさせ、行政自身の言葉で行政を動かすよう質問を設計しましょう。

36

【考察】

今回のセミナーを受講し、市議会議員として質問の「質」が議会活動の成果を左右する重要な要素であることを再認識した。単なる意見表明ではなく、具体性・客観性・目的意識を持った質問こそが、行政を動かす力になると学んだ。「悪い質問」を「良い質問」へと変換する視点や、「たちつてと」の技法を活用した問いの深掘りは、実務にも直結する実践的な学びだった。また、質問は交渉や提案の入口であり、事前準備と構成力が不可欠であることも痛感した。今後は、政策提言につながる問いを意識し、市民の声を効果的に届ける役割をより果たしていきたい。